

清水市政の3年間の主な実績・進捗

「さいたま市役所は“市民のしあわせコーディネーター”」

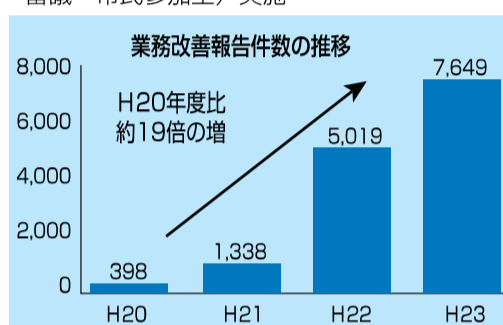
「保育所、ナースリー等の定員増3283人(+H24年度1080人予定)」

「太陽光発電補助件数2826件、「介護者相談の年中無休化」。「全国情報公開ランキング指定都市最下位→4位」(県内1位)「職員業務改善件数7649件・19倍に!」



徹底した行財政改革

- ・市長の退職金50%カット、給与・期末手当10%カット
- ・行財政改革による財源創出額：平成22年度決算298億円(目標達成率106%—歳入79億円増、歳出218億円減)
- ・市職員の削減合計267名(H21-24年度)
- ・市長直轄「行財政改革推進本部」設置、民間人登用12名
- ・外郭団体改革プラン策定(4年間で22団体を17団体に統合、約15億円削減を目標)
- ・職員の積極登用・庁内公募制度の導入
- ・公共施設マネジメント会議設置、公共施設マネジメント計画素案の策定
- ・外郭団体への自動的な天下りの廃止
 - ※「自動的な天下り」=市の推薦に基づき、市OBが外郭団体の役員へ就職すること
- ・さいたま市版事業仕分け(行財政改革公開審議—市民参加型)実施



高齢者・障害のある方への支援

- ・介護者の相談、癒しの場(地域包括支援センター)の年中無休化
- ・高齢者の買い物割引、特典などを設ける「シルバー元気応援ショップ制度」創設1013店舗(H23年度)
- ・配食サービス週4回から5回へ
- ・シルバーユニバーシティの定員増
- ・特別養護老人ホーム895床増床(H21-23年度)、老人福祉センター1か所増設(H24年度さらに1か所増設)
- ・障害児通園施設はるの園整備
- ・特別支援学校「さくら草」整備、支援学級の増設
- ・安心長生き条例の制定
- ・(仮称)シルバーポイント事業、(仮称)ゴールドチケットの交付
- ・(仮称)高齢者見守り協力員事業(H24・10~)

市民との協働

- ・市民活動を促進する「マッチングファンド制度」創設他

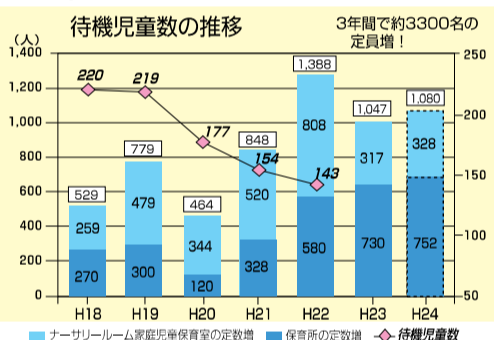
- ・12大学が連携する大学コンソーシアムさいたまの設立を支援し包括協定を締結

情報公開日本一:全国トップレベルに

- ・全国オンブズマン連絡協議会—情報公開ランキング最下位(指定都市中19位)から4位(県内1位)
- ・予算編成過程の公表(指定都市中ランキング3位)
- ・都市経営戦略会議の結果概要公開
- ・身近な道路(スマイルロード、暮らし道路)整備の要望状況、進捗状況等公開
- ・印刷物、イベント、工事などにコスト表記
- ・出前講座スタート

子ども・子育て支援

- ・子ども未来局新設
- ・放課後児童クラブ受け入れ可能数1076名増・19か所増(H21-23年度)
- ・児童虐待をなくそう!児童相談所の強化(児童福祉士、児童心理士)増員
- ・子育て支援センター7か所増設(H21-23年度)
- ・小中学校15校、保育園33園の校庭、園庭の芝生化(H21-23年度)
- ・一日保育士、幼稚園教諭体験事業スタート延べ2254名が体験(H21-23年度)
- ・大宮駅西口に公立と民間の併設の大型保育園整備(定員255名)H25・4開設予定
- ・さいたまバススクール開始、親の学習アドバイザー事業開始
- ・みらくる先生、プロスポーツ選手、アーティストなどによる授業を全小中学校で実施
- ・小中学校の耐震化前倒し(平成24年度完了予定)実施



スポーツのまちづくり

- ・市民・スポーツ文化局新設
- ・さいたまスポーツ振興まちづくり条例制定(政令指定都市全国初)
- ・さいたまスポーツコミッションの創設
- ・さいたま市スポーツ振興まちづくり計画策定

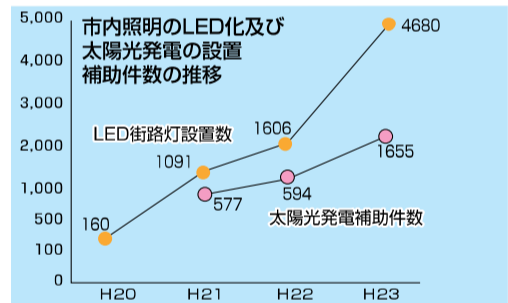
- ・多目的広場倍増プロジェクトチーム、多目的広場30か所の設置(H21-23年度)
- ・さいたまシティマラソンの拡充

市民サービスの向上

- ・各10区役所にたらいまわしにしない「くらし応援室」、フロアアドバイザーの設置・充実
- ・コンビニエンスストアでの市税の収納開始、各種証明書の発行準備(H24・11~)
- ・区長マニフェスト及び明るい区役所運動の推進
- ・防災担当など区役所へ44の窓口事務の移管

環境先進都市・くらしやすいまち

- ・学校防犯ボランティア1万2千人(1.5倍)
- ・電気自動車の普及促進、E-KIZUNA Project「E-KIZUNAサミット・フォーラムinさいたま」開催
- ・見沼田圃基本計画・同アクションプラン策定
- ・公園の芝生化整備7か所増設等、みどり倍増プロジェクトの推進
- ・下水道普及率89.0%に(H23年度)
- ・身近な道路の整備(スマイルロード、暮らしの道路)
- ・浦和駅鉄道高架化事業—東西連絡仮設通路開通
- ・日進駅、指扇駅、岩槻駅の橋上化、駅のバリアフリー化の推進
- ・大宮駅周辺地域戦略ビジョン策定—大門町2丁目中地区へのNHK放送会館の誘致



徹底した現場主義

- ・現場訪問594か所(H21~H23年度)、(現場訪問327か所、学校訪問125か所、タウンミーティング各61回、職員車座集会81回)

●全国初「さいたまスポーツコミッション」を設立

スポーツの分野で新たな観光・交流人口の拡大を図るため、スポーツの全国大会、国際大会を誘致し、開催支援を専門的に展開する組織として、国内初となる「さいたまスポーツコミッション」を23年10月に設立しました。スポーツでさいたま市を元気にします。



●総合特区に決定!「次世代自動車・スマートエネルギー特区」

環境未来都市を目指す「次世代自動車・スマートエネルギー特区」に指定されました。特区は、太陽光発電などを取り入れた住宅が電力を融通しあうスマートハウス・コミュニティの整備。ガソリン、天然ガス、電気、水素などの自動車燃料を1か所に集めた複合ステーションの整備。低炭

素型の2人乗り可能なEV原付の開発・普及などが目的。さいたま市が全国のモデルケースを創り出します。



●政令指定都市全国初「ノーマライゼーション条例」を制定

政令市初「さいたま市誰もが共に暮らすための障害者の権利の擁護等に関する条例」(通称=ノーマライゼーション条例)が誕生。障害者権利条約に沿って「障害者」「差別」「虐待」等を定義し、差別と虐待を禁止し、その相談や調査の仕組みを設ける条例。100人委員会を設置し、市民が検討



●「どちゃれ」全校で実施予定

一昨年スタートしたさいたま土曜チャレンジスクール(通称どちゃれ)が今年度全校の小中高校での実施を予定しています。これは、土曜日に基礎学力の向上に役立てたいと小中高校の児童・生徒たちが自主的に行う学習(補習・ものづくりなど)を地域の大人がサポートする場です。

